

樹木のふしぎ/マンサク

みどり探訪/桃園川緑道

杉並景観録第27号~農福連携農園

みどりの窓/荻外荘 復原・整備プロジェクト

緑の歳時記/Kさんのちょっと好奇心「ジュズサンゴ」

園芸ワンポイント/シャコバサボテン



## 樹木のふしぎ

### マンサク (万作)

マンサクの花をご存知でしょうか。まだ寒い2月頃から咲き始め、ヒモをねじったような黄色い花を咲かせます。甘い香りと共に春の訪れを告げます。

#### ◆名前の由来は

厳寒の頃、真っ先に花が咲くことから「まず咲く」がなまって変化したという説や、花弁が豊年を祝う踊り子の手足のようで、踊り子の「豊年じゃ、満作じゃ」の掛け声からついたという説などがあります。

#### ◆どんな木ですか

マンサク科の落葉の小高木で、高さ5~6mになります。秋には葉が美しく黄葉します。

#### ◆どんな花ですか

4弁の花弁は長さ約1.5~2cmで、花が数個集まって咲きます。早春に、葉に先立って花が咲きます。黄色の鮮やかな花は、付け根の赤い部分が際立ち、小さいわりに目立ちます。

#### ◆用途は

葉は薬用に、樹皮は丸太を縛る綱に、材は弾力性に富むため、土木工事などに活用されています。

#### ◆さあ！探しに出掛けて見ませんか

区内では西荻北中央公園、成田西ふれあい農業公園などで見られます。

アカバナマンサクなど赤い花の品種もあります。



オシベ



ツボミ



冬芽



アカバナマンサク





# みどりの探訪 桃園川緑道

高円寺南地域を東西約1.6キロにわたって続く桃園川緑道。沿道に生い茂る樹木や花壇・植え込みには多種多様な花が咲き乱れ、四季折々を彩るみどり豊かなプロムナードとして区民に憩いと癒やしを与えています。

そこで今回は、散策時にぜひおすすめの花々をご紹介します。

## 春～夏

春にはサンシュユやマンサクに先導されて、随所でサクラが春爛漫を謳歌するでしょう。植え込みにはヤマブキやアセビ、つづいてオオムラサキツツジやサツキが、初夏になるとアジサイが咲き乱れます。



コバンタツナミソウ



サンシュユ



アケボノアセビ



みどりとひと編集ボランティアも散策に訪れました。(手前の花はムシトリナデシコ)



## 夏～秋

夏から秋にかけてはサルスベリやムクゲが次から次へと咲き続け、初秋には緑道全体がキンモクセイの芳香に包まれます。ザクロ、カリン、クサボケの実も楽しいですね。

そして晩秋にはイロハモミジやドウダンツツジの見事な紅葉が1年を締めくくります。

季節ごとに移り変わる花を愛でながらの散策は、まさに緑道ならではの楽しみ方ですね。



キンモクセイ

### 珍しい草木をみつけてみよう

ヤエノドクダミ、ベニサラサドウダン、ナギイカダ、シロヤマブキなど、珍しい植物もみられます。また、アベリア・エドワードゴーチャーやアセビ・バレーバレンタインなど、異色の園芸種も植栽されていますので、こちらもぜひ。



ヤエノドクダミ

### 桃園川に棲んでいた水辺の生物!?



水辺の生物をモチーフにした数点のオブジェが、長い散歩道のポイントになっています。

阿佐ヶ谷駅

JR 中央本線

高円寺駅

4



桃園川緑道の入口



● 杉並学院高等学校

桃園川緑道

高円寺川

WC

高南通り

環七通り

● 交番

高南みどり公園



ジュウガツザクラ  
10月～12月と、4月上旬の2回花が咲きます。

大久保通り





## 令和6年12月公開に向けて 荻外荘 復原・整備プロジェクトを進めています

荻外荘(てきがいそう・荻窪2-43)は、昭和戦前期に内閣総理大臣を3度務めた政治家近衛文麿の別邸です。近衛内閣時代における重要な政治会談(荻窪会談・荻外荘会談等)や組閣の舞台となった場所として、平成28年3月に国の史跡に指定されました。



荻外荘復原イメージ

杉並区では現在、荻外荘を近衛内閣の政治の場となった昭和16年頃の姿に復原し、令和6年12月公開予定の史跡公園として整備する「荻外荘復原・整備プロジェクト」を進めています。



杉並区公式HP「荻外荘復原・整備プロジェクト」はこちらから

### 令和3年11~12月「荻窪週間」

#### 荻窪を楽しむ秋のイベントを開催しました

多くの方に荻外荘に足をお運びいただき、日本を代表する建築家・伊東忠太が手がけた荻外荘の魅力について知っていただく機会となりました。

講演会「建物の移築と荻外荘」



パネル展



#### みどり公園課公式Twitterをご存知ですか

Twitterでは、荻外荘関連のトピックをはじめ、さまざまな情報を発信しています。



杉並区みどり公園課  
@esuginami\_koen



### みなさまのご支援が大きな力に ご寄附のお願い

荻外荘の復原・整備を進めるにあたり、皆様からのご支援として、寄附を募っています。多くの皆さまからのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

#### ◇ご寄附の方法は

##### ●クレジットカード等から

下記の二次元コードを読み取るか、インターネットで「ふるさとチョイス 杉並区」と検索いただいて、指定のウェブサイトからご寄附いただけます。

ふるさとチョイス 杉並区



スマートフォン  
はこちらから

##### ●郵便局・銀行等の金融機関から

納付書をお送りしますので、下記までご連絡ください。

お問い合わせ みどり公園課みどりの計画係

## 「落ち葉感謝祭 2021」が開催されました

厄介者と思われがちな「落ち葉」ですが、夏には涼しい木陰をつくり、私たちに安らぎを与えてくれました。

そんな落ち葉に感謝の気持ちを込めて落ち葉掃きを行う「落ち葉感謝祭」。昨年12月4日(土)に、中杉通りや区内の11公園を会場に、多くの方に参加していただきました。百草森公園では、草木染めや飾り炭づくりなどのお楽しみイベントも行われました。

#### ◇落ち葉感謝月間(11月15日~12月14日)

みどりのリサイクルの考え※に賛同していただいた団体に、この期間に落ち葉掃きを行っていただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

※みどりのリサイクルの考え: 私たちに様々な恩恵を与えてくれる落ち葉に感謝し、落ち葉を単にごみとして捨てるのではなく、可能なかぎり資源として利用し、自然の循環に戻そうという考え方



中杉通り歩道上での落ち葉掃き

Kさんのちょっと好奇心

## 緑の歳時記 ジュズサンゴ (数珠珊瑚)

ヤマゴボウ科/熱帯アメリカ原産の小低木

9月下旬桃園川緑道を散策しました。環七通りを中野方面へ少し入った右側に、とてもきれいな宝石のような赤く可愛い実が目につきました。「ジュズサンゴ」です。ほとんど見たことがなく、名前だけは知っていたので、さっそく図鑑※で調べてみました。明治後期に小笠原の父島へ入ったとされ、野生化し、沖縄へは日本復帰後観賞用として入りました。公園や個人宅の庭で見ることができます。

さて、この赤い実の中には種はいくつ入っているでしょう。なんと黒い丸く平らな直径3mmの種が1個でした。

※図鑑「日本帰化植物写真図鑑」第2巻



花

種



みどりの相談所の先生に聞く



みどりに関する相談は  
**塚山公園 みどりの相談所**  
 ☎03-3302-9387

杉並区下高井戸5-23-12  
 毎週日曜日(第5日曜日、年末年始を除く)  
 午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



## シャコバサボテン

サボテン科カニバサボテン属(シュルムベルグ属)

ブラジル原産の多肉植物で、10～1月に、赤やピンクなどの鮮やかな花をつけます。別名「クリスマスカクタス」と呼ばれています。太陽の光が当たる時間が短くなることで花を咲かせる「短日(たんじつ)植物」です。



●長く楽しむために 植え替えをしましょう

鉢の中で根がいっぱいになりやすいため、2～3年に1度は一回り大きな鉢に植え替えましょう。  
 植え替え時には、多肉植物用・サボテン用の培養土を用い、緩効性の元肥を混ぜて使います。

<手順>

- ①根についた土が崩れないように、鉢からゆっくりと抜き出す。
- ②手で根をやさしくほぐし、土を落とす。
- ③傷んでいる根を、はさみやピンセットで取り除く。
- ④鉢にパーライトなどの水はけの良い鉢底石を敷く。
- ⑤鉢の1/3程度まで土(培養土)を入れる。
- ⑥新しい鉢の中心に植物を置き、周りに土を入れる。
- ⑦割りばしなどで土の表面をつつき、隙間を埋め、適量まで土を入れる。

●カニバサボテンとの見分け方



シャコバサボテン



カニバサボテン

開花期: 10月～1月ごろ

1月～3月

葉の形: 先がとがっている

丸い形

※よく似た鉢物のイースターカクタスは、開花期が3月～4月頃です。葉や花の形がやや違い、おしべが星形をしています。

●シャコバサボテン年間管理カレンダー

| 項目   | 月 | 1   | 2   | 3 | 4   | 5 | 6 | 7 | 8 | 9   | 10 | 11 | 12 |
|------|---|-----|-----|---|-----|---|---|---|---|-----|----|----|----|
| 生長段階 |   | 休眠期 |     |   |     |   |   |   |   |     |    | 開花 |    |
| 植替え  |   |     |     |   | 植替え |   |   |   |   |     |    |    |    |
| 葉摘み  |   |     | 葉摘み |   |     |   |   |   |   | 葉摘み |    |    |    |
| 施肥   |   |     |     |   | 施肥  |   |   |   |   |     |    |    |    |

●翌年もきれいに花を咲かせるために

冬～初春

- ・花が終わったら、花のついていた茎節を1～3節切り離し、株の形を整える。
- ・室内の日の当たる場所に置く。
- ・水やりは月に1～2回程度とする。

春

- ・4月ごろからは、屋外の半日だけ、陽の当たる風通しの良い場所に置く。
- ・水は乾いたらたっぷりあげる。
- ・6月まで月に2～3回肥料を与える。

夏

- ・昼間の直射日光は避ける。
- ・暑さで生育が衰えるので水やりは控えめに(乾いて2～3日後に)。

秋

- ・半日程度、日に当てる。
- ・乾いたら水をたっぷりあげる。
- ・9月中旬～10月初旬に葉摘みを行う。
- ・色が浅く小さな新芽はすべて摘み取る。
- ・葉摘み後2週間ほどは、水やりを控える。

葉摘み



指でつまんで軽くひねると節間からきれいに摘めます。

秋～冬

- ・10月終わり頃から室内の明るいところに置く。※夜も明るいので注意する。
- ・ツボミが見え、土の表面が乾いたら、たっぷり水をあげる。

**編集後記** 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 今年のキンモクセイは2度、3度咲きもあったとか。でもなぜかあの独特の香りは殆どせず…これは私だけかしら。(小)
- 昨夏、ど根性ひまわりの子孫がペランダで立派に咲きました。種は取れませんでした。とっても残念です。(水)
- 自費生活が続いて外に出なかったせいか、花や木の名前を結構忘れていました。また散歩しながらゆっくり思い出しましょう。(松)
- キンモクセイの花が今年はすいぶん早く咲いたと思ったら、散るのも早く、その後2度3度と返り咲いたのは驚きの出来事でした。(山)
- 桃園川緑道散策の際、3人のご婦人に声をかけられました。区間ごとに緑の世話をされている笑顔の素敵な人々でした。(佐)



みどりの新聞 みどりとひと177号 令和4年1月20日発行  
 編集/みどりのボランティア  
 編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111  
 「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/







▲農園と古民家風の管理事務所

# 杉並景観録

Keikan-Roku SUGINAMI CITY

第二十七号



## 農地保全の新たな形

### 杉並の原風景が残る井草地域

杉並区は昭和初期まで、田畑と屋敷林に囲まれた家屋が点在する風景が広がっていました。昭和40年代から戸建て住宅を中心とした宅地開発が進み、昭和60年には100haあった農地も令和2年には40haまで減少しています。

杉並区では、原風景である屋敷林と農地を中心としたみどりを保全し、農のある風景を残していくことを目的に「杉並区緑地保全方針」を策定しました。井草地域は区内でも比較的田畑や屋敷林が残る地域であることから、方針では「杉並らしいみどりの保全地区」に指定されています。



▲障害者や高齢者などが畑作業などを行うことで、生きがい創出、健康増進につなげます。

### 農業と福祉の連携

農地は減少傾向にありますが、井草地域では「農福連携農園すぎのこ農園」という新たな形で農地を保全することによって、農のある風景を守ることに寄与しています。

「同農園」は令和3年4月に全面オープンし、障害者や高齢者等が農作業を通じて、就労支援や生きがいづくりにつなげることで、都市農地の多面的機能の発揮に取り組んでいます。



▲多目的農園区画では、区民向けの収穫体験なども行っています。



## 農福連携農園 (すぎのこ農園)

井草3-19-23

敷地面積3240.62㎡

管理事務所棟160.84㎡  
(倉庫棟107.65㎡、休憩所8.23㎡)







▲区民ボランティアなどの参加による農園運営を行っています。



## 魅力ある農の風景へ 古民家の活用

農園の整備にあたっては、かつて区内の農家だった古民家を活用し管理事務所として整備することで、農の風景の魅力をさらに高めています。



## 江戸時代中期の建物の部材 を使用

管理事務所棟は、江戸時代中期（18世紀中頃）の建築とされる区内農家の古民家（井口家住宅）の部材や建具などを使用して、整備されました。建物の梁や柱などの部材は、区内に現存するものとしては最も古い年代のもので、柱などには使用当時の傷や穴、柱を切断した痕跡などが見られ、長い年月を経た木の風合いとともに、古民家の歴史が受け継がれています。

この古民家（井口家住宅）は、杉並区に寄贈された令和2年10月まで、杉並区の上井草2丁目に現存していました。住宅の型式は「三ツ間取り広間型」と呼ばれ、江戸時代初期から中期まで続いた型式で、広間、出居、納戸（茶の間、客間、寝室）と、主に三つに分かれています。

事務所の正面入口から入って一番左奥に和室が、その手前に土間があり、土間には囲炉裏と、当時使用されていた農具も展示され、かつての農の風景を想い起こさせます。



## 今後の活用に向けて

土間には、実際に農園で収穫した作物が一次的に保管され、囲炉裏では温める程度の簡単な調理なども行われます。

事務所奥にある調理スペースを使用して、将来的には収穫物を使用した子ども食堂の開催や、地域団体によるイベント開催など、地域に根差した取り組みなどにも活用される予定で、より充実した農業と福祉の連携が期待されます。



▲屋根（写真は屋根の裏側）：建物の一部部材を再利用するなど、古民家の空間を再現しています。



▲管理事務所棟内の様子



所在地：井草3-19-23  
 開園時間：午前9時～午後5時  
 休園日：原則土・日曜日、祝日、年末年始  
 電話：管理事務所tel 5303-9835  
 交通：西武新宿線「井荻駅」北口より徒歩8分  
 関東バス「阿佐ヶ谷駅」北口→「中村橋駅」、  
 「阿佐ヶ谷駅」北口→「石神井公園駅」、  
 いずれも「八成小学校」バス停下車徒歩3分  
 ※農園内は一般開放しておりません。管理事務所棟とその周辺は見学することができますので、管理事務所までお問合せください。



農具等の展示：移転前の井口家にあつたものと、郷土博物館収集・所蔵のものを、展示しています。